「佐賀大学電子計算機室」

元佐賀大学電子計算機センター主事
森田　譲

「佐賀大学電子計算機室」、この名前をご存じの方は少ないのではないかと推察される。ここでは、佐賀大学付属研究施設として、初めて運用が始まった“佐賀大学電子計算機センター”の約40年の歴史を振りかえる。

佐賀大学共同利用計算機センターとして初めて誕生したのが「佐賀大学電子計算室」であり、これは昭和４５年（１９７０年）４月から暫定的な使用が始まり，９月から佐賀大学共同利用研究施設としての正式な運用が始まった．場所は理工学部１号館南棟西側にある平屋の建物であった。このとき使われた電子計算機は富士通製のＦ２７０－２０である．昭和４６年２月の電子計算機室ニュースNo.4によると

ユーザ使用容量　　コア数　　１３ＫＷ
　　ドラム数　　３６．５ＫＷ
　　１ステートメントの使用コア数　平均２０Ｗ

とあり、この点に留意のうえプログラムをお組みくださいとある。「コア」とはフェライトコアの意味であり、当時は記憶素子として、直径数ミリの磁石が使われていたのである。１Ｗ（Word、１語）４バイトとして、主記憶容量は５２ＫＢ、補助記憶容量は１４６ＫＢとなる。補助記憶装置は磁気ドラムであった。これに比べて、現在のパソコンの記憶容量はGB単位であり当時と比べると百万倍となっている。もちろんフロッピーディスク、USBメモリーなどはなく、紙テープかパンチカードにプログラムやデータを保存していた。この計算機が１０年間使用された後、昭和５５年（１９８０年）に富士通製のＭ１５０－Ｆが導入され、「佐賀大学電子計算機センター」として現在の場所に新しい建物とともに生まれ変わるのである。この計算機は主記憶装置２ＭＢ、補助記憶装置１３５ＭＢの性能を持っていた。当時の計算機センター主事、岩重氏（現在福岡工業大学教授）のもと、彼の精力的な運用とともにこの計算機は大いに利用された。当時の利用方法は従来のパンチカード方式とＴＳＳ（時分割システム）方式であった。しかし、計算機センターに出向く不便さと利用の混雑に計算機センター離れが始り、パソコンの利用が始まった。岩重氏の転出にともない、昭和６０年（１９８５年）から私が電子計算機センター主事として務めることになった。昭和５５年１９８０年はパソコン元年ともいわれ、情報化社会の始まりを告げる年でもあった。その当時のパソコンは１００万円くらいし、あまり普及しなかったが数年すると３０万円台になり、研究費で購入できるようになった。これとともに、計算機センターの利用は激減し始めた。

私の主な任務はいかに電子計算機センターの利用を増やすかにあった。しかし、利用者は減る一方であった。私はプログラミング講習会やパソコン入門講座を開いて少しでも計算機使用料収入を増やす努力を続けた。これらの講座はパソコンの普及にともない盛況であった。このほかに現在の計算機を更新し、高性能の計算機を設置し、利用者を呼び戻すことであった。現状分析から将来計画までの膨大な資料を小野技官の協力を得

て作成し、文部省に提出した。そして、事務官の方とともに文部省を訪れ、「情報処理センター」設置への好感触を得たのは昭和６２年のことであった。私が務めたこの２年半は多くの人がパソコンの利用を始めた転換期に当たっていたのであろう。

そして、昭和６３年に「情報処理センター」が設置され、私の後任の福井先生のもとで現在の隆盛をほこるセンターが運用を始めた。福井先生はこれまでの重厚長大の汎用機に別れを告げ、ネットワークの構築に便利なワークステーションの導入を企画した。平成５年には演習室が増築され、全学教育センターの発足とともに、情報処理科目が必修科目として課され、情報処理教育の拠点として、重要な役割を果たすようになった。この実績が認められ、「大型計算機センター」に次ぐ規模を持つ「学術情報処理センター」が発足し、さらにそれが現在の「総合情報基盤センター」となっている。以上をまとめると以下のようになり、１０年ごとの大きな変化を遂げている。前半の２０年は１台の計算機をみんなで使用する時代であり、後半の２０年はパソコンの利用と、それをつなぐネットワークの構築に力が注がれていることがわかる。

昭和 45 年(1970 年)　電子計算機室設置

昭和 55 年(1980 年)　パソコン元年、電子計算機室を電子計算機センターに名称変更
大型計算機時代　集中処理
電話モデムの使用

昭和 63 年(1988 年)　電子計算機センターを廃止し情報処理センター設置
パソコン時代　分散処理

平成 2 年(1990 年)　学内 LAN の第 1 期工事として理工学部、農学部に敷設
コンピュータネットワークの構築が始まる

平成 12 年(2000 年)　学術情報処理センター設置

平成 18 年(2006 年)　総合情報基盤センターへ改組

最後に、私にとりましてこの４０年間、計算機センターの利用と運営に何らかの形で参加でき、多くの出会いに恵まれたことは大変幸せでした。